

# 田原市総合計画における指標設定について

## 1 総合計画におけるこれまでの指標について

### (1) 指標設定の考え方と達成状況について

市民と行政が目指す目標の共有化を図るとともに、政策や施策の進捗度を測るため、田原市総合計画には「人口関連指標」「経済関連指標」「地域持続性指標」「市民満足度指標」を設定しています。

各指標の進捗状況は次のようになっています。（※データが公表されていないなどの理由により、策定時と数値が変わっていないものについては平成22年数値を「－」としています。）

#### ア 人口関連指標

指標名(単位)	策定時	H22	H28目標値
総人口(人)	66,390	64,119	69,000
高齢化率(%)	19.9%	22.2%	23.6%
男女別人口	－	－	－
世帯数(世帯)	20,006	21,145	23,000
合計特殊出生率	1.40	－	1.51

#### イ 経済関連指標

指標名(単位)	策定時	H22	H28目標値
居住地就業(人)	40,700	－	43,000
従業地就業(人)	41,100	－	45,000
市内総生産(億円)	6,000	5,765(H20)	8,000
農業産出額(億円)	760	724(H18)	850
製造品出荷額等(兆円)	2	1.28(H21)	2.4

#### ウ 地域持続性指標

指標名(単位)	策定時	H22	H28目標値
食糧自給率	127%	－	向上
水資源の確保	－	－	向上
エネルギーの自給率	－	－	向上
まちの住みよさ	84%	90.3%	向上

#### エ 市民満足度指標

指標名(単位)	策定時	H22	H28目標値
市民満足度	－	－	向上

※“まちの住みよさ”は、市民意識調査による「住みやすい」「どちらかと言えば住みやすい」の合算。

人口は大きく減少し、高齢化率や世帯数は増加しています。「経済関連指標」では、平成20年の世界的な不況の影響により、市内総生産、製造品出荷額はともに減少しています。

## 幸福度に関する研究会報告 ー幸福度指標試案ー

### 【幸福度導入の目的】

欧州、北米、オセアニア、アジアの国々において、GDPを超えた指標として幸福度指標の作成が進んでいる。また、日本では所得の増加と主観的幸福感が連動していないという課題がある。このため、①日本における幸福度の原因・要因を探ること、②社会全体の幸せを深めていくために国、社会、地域が目指すものは何か、議論の手がかりを提供すること、の2点を目的に、幸福度の指標化について研究。

### 【幸福度の考え方】

主観的幸福感を上位概念として、「経済社会状況」「心身の健康」「関係性」を3本柱とする。「持続可能性」については、3本柱とは別立てで検討。

### 【検討にあたっての基本的考え方】

- ・子ども、若者、成人、高齢者というライフステージの違いの勘案
- ・国際的比較可能性
- ・主観的幸福感を中心とした体系化
- ・既存統計で把握できない指標についても含めた提案
- ・単一の指標で表す統合指標の策定は行わない

### 【課題】

提案された指標群の中には全国規模で把握されていないものが含まれる。全国レベルでのパネルデータの収集により、政策的有効性の検証が必要である。

## (2) 幸福度を導入している自治体の事例

地方自治体においては、東京都荒川区、新潟市、熊本県をはじめとする様々な自治体において幸福度の研究が進められています。いずれの自治体も、独自の指標名の設定、幸福度を構成する分野とその指標項目についての検討などが行われています。

### ■他自治体の例

東京都荒川区 (調査・検討中)	新潟市 (調査・検討中)	熊本県 (調査・検討中)
<b>【指標】</b> GAH (Gross Arakawa Happiness: 荒川区民総幸福度)	<b>【指標】</b> NPH (Net Personal Happiness: 市民の幸福度)	<b>【指標】</b> AKH (Aggregate Kumamoto Happiness: 県民総幸福量)
<b>【幸福度の考え方】</b> 区民世論調査において、GAH(荒川区民総幸福度)に関する項目を設定し、調査。「暮らし」「安心・安全」「地域とのつながり」「生きがい」の4分野と、「幸福度」の合計5つの分類で実施。	<b>【幸福度の考え方】</b> NPHの主要な必要条件と位置づけた状態に対応した「子どもたちが恵まれている」「安心・安全、温かい家庭生活」「やりがいのある仕事、経済的ゆとり」「社会とのつながり、連帯、信頼」「高齢者も恵まれている」の5つの評価軸について30の指標を設定。	<b>【幸福度の考え方】</b> 幸福を感じる要因を「夢を持っている」「誇りがある」「経済的な安定」「将来に不安がない」の4分野12項目に分類。県民アンケート、県民参加のワークショップ等により把握。

## 2 田原市における「市民幸福度」の指標化について

### (1) 「市民幸福度」の基本的な考え方

近年、世界の多くの国において、幸福度の指標化に関する研究が進められています。特に注目を集めているのはブータン王国が1972年に打ち出したGNH(国民総幸福度)という概念であり、ブータンではこのGNHの増大を国家の目標に据えています。

日本においては、平成22年6月に閣議決定された「新成長戦略」に基づき、幸福度に関する調査研究を推進するため、有識者からなる「幸福度に関する研究会」が平成22年12月に設置され、その結果報告書が平成23年12月に取りまとめられています。報告書では、「経済社会状況」「心身の健康」「関係性」の3つの要素に着目した幸福度指標の試案が提案されました。

### 3 田原市総合計画における指標設定（案）

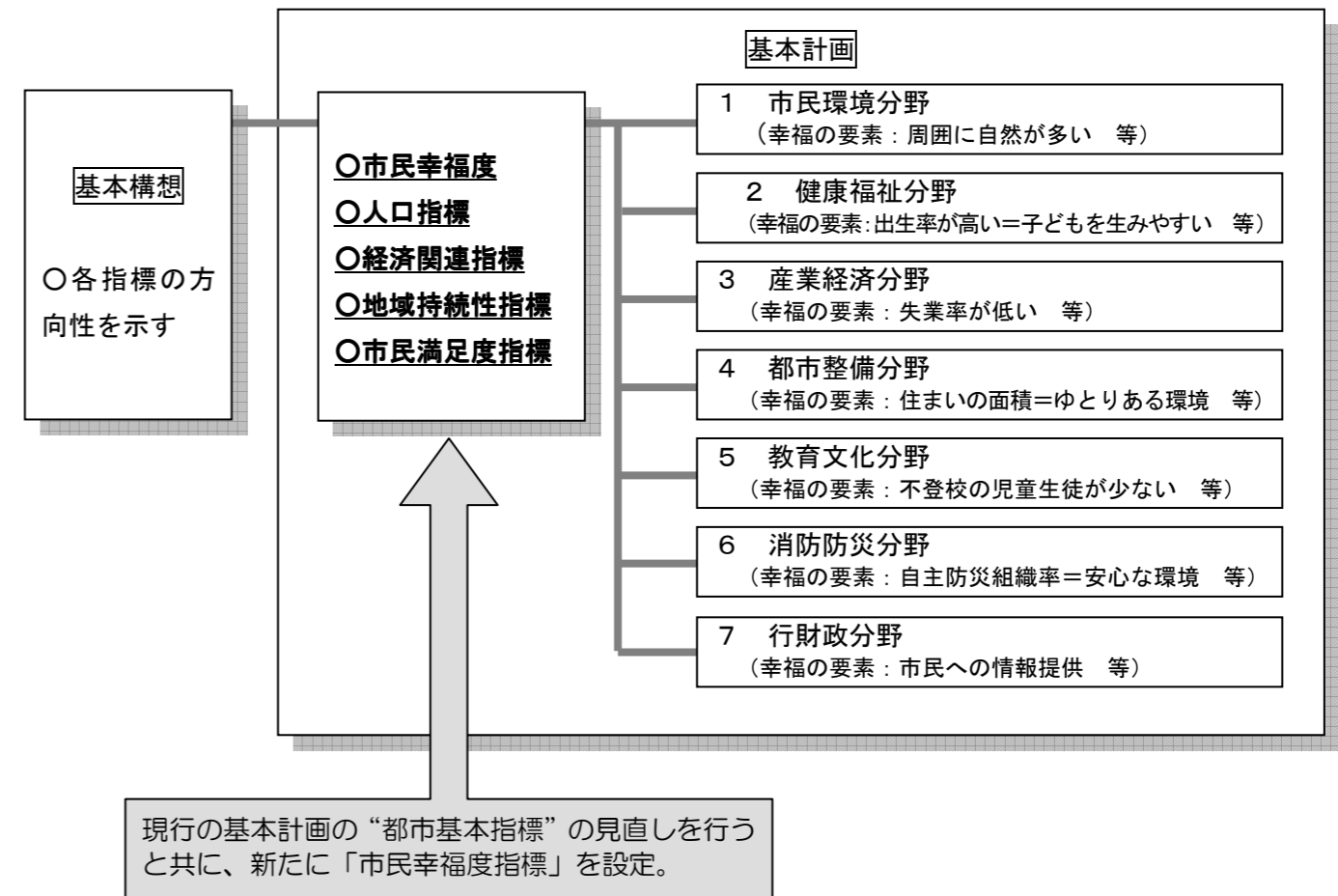
#### （1）基本構想における指標について

田原市総合計画では、4分野・15項目の指標を設定し、それぞれに数値目標を掲げてきました。しかし、一部の指標については、社会情勢がめまぐるしく変化する中であって、基本構想（長期スパンの目標）での数値の設定が困難となっています。

そのため、今回の改定においては、基本構想では、本市の目指す「将来都市像」を補完するため、各指標の方向性を示すこととし、数値目標など具体的な指標については基本計画に位置付け、事業の進捗に合わせ、進行管理を図ることとします。

また、市民の幸福感の向上を目指すため、新たに『田原市の市民幸福度』を指標として設定することとします。

■田原市総合計画における新たな指標設定のイメージ



#### これからの検討課題と対応案

- 「市民幸福度指標」自体が国、他自治体でもまだ研究段階。田原市版幸福度指標を設定するにあたっては検討が必要である。⇒今回の総合計画では、起点となる考え方、指標を示すこととし、その後の研究・検討を踏まえて随時見直していく。
- 「田原市民の幸せ」についての市民のコンセンサスをどこで得るか。⇒まちづくり市民会議で分野ごとに検討する機会を設けていく。
- どのレベルで「市民幸福度指標」を設定するか。⇒分野ごとの指標と、総合評価で設定する。
- アンケートなどで測る「主観的な幸福度指標」と、データなどに基づく「客観的な幸福度指標」どちらで設定するか。⇒現在の市民意識調査で設定している「満足度」からの設定や、国、愛知県や近隣市、同規模自治体などとの比較が行える統計データなどから設定を行う。